

道徳の授業の指導方法の工夫

道徳研究会議

研究員 奈良 沙織（川崎市立渡田小学校） 齋藤 樹里（川崎市立菅小学校）

鈴木 孝平（川崎市立田島中学校） 丸山 真一郎（川崎市立川崎高等学校附属中学校）

指導主事 水之江 忠

I 主題設定の理由

平成 27 年 3 月 27 日に「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」が一部改正された。これにより、道徳の授業については、「特別の教科 道徳」（以下道徳科）として示され、昭和 33 年に「道徳の時間」が導入されて以来の大きな変化を迎えることとなった。この一部改正された学習指導要領が全面実施を迎えるのは、小学校は平成 30 年 4 月、中学校は平成 31 年 4 月からである。道徳の「特別の教科」化に備え、現行の学習指導要領において道徳の授業の充実を図るとともに今後新たに取り入れられるであろう指導方法について見通しをもつ必要があると考えた。

一部改正された小学校学習指導要領の「第 3 章 特別の教科 道徳」の「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、「児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。」¹とあり、新たな指導方法を工夫することが具体的に示されている。同様に一部改正された中学校学習指導要領にも「生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。」²とある。

そこで、本研究会議では、道徳科での授業を見据えた道徳の時間の授業展開と新たな指導方法としての問題解決的な学習の授業展開を探る必要があると考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究の方法

（1）「特別の教科 道徳」での授業を見据えた「道徳の時間」の授業展開を探る

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（以下「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」）には、「教材から読み取れる価値観を一方向的に教え込んだり、登場人物の心情理解に偏ったりした授業展開とならないようにする」³ことが示されている。現在の道徳の時間でも、このような授業展開にならないように取り組んでいるが、道徳科において、このことはますます重要な視点となってくる。読み物教材を活用した指導だけではなく、現在の道徳の授業については様々な課題が指摘されているところではあるが、その一方で現在行われている道徳の時間の授業展開の中にも、道徳科の授業展開として行うことができるものもあるのではないかと考える。読み物教材を活用した道徳の時間の授業について、どのようなところに目を向けることが、道徳科の授業ともつながっていく授業展開となるのかを検討していきたい。

¹ 文部科学省『小学校学習指導要領』平成 27 年 p. 97

² 文部科学省『中学校学習指導要領』平成 27 年 p. 103

³ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成 27 年 p. 80

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成 27 年 p. 79

(2) 「問題解決的な学習」の授業展開を探る

問題解決的な学習については、先にも触れたとおり一部改正された学習指導要領にも示されているように、今後の指導方法として研究を重ねていく必要がある。そこで、本研究会議では、道徳の授業における問題解決的な学習の授業展開について考えていきたい。

あわせて、小学校1年生、3年生、中学校2年生、3年生で検証授業を行い、発達の段階等の違いについても考えていきたい。

2 研究の実際

(1) 「特別の教科 道徳」での授業を見据えた「道徳の時間」の授業展開について

読み物教材を効果的に生かすことについて「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」には次のように示されている。「例えば、伝記、実話、意見文、物語、詩、劇などがあり、多様な形式のものを用いることができる。それらを学習指導で効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められる。」⁴とある。

では、「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」に示されたような読み物教材を効果的に生かした授業展開とはどのようなものだろうか。川崎市教育委員会、川崎市立小学校教育研究会発行の小学校学習指導要領実践事例集に道徳の時間の授業展開について説明が掲載されている。そこには、教材の活用による道徳的価値への追求についての説明として、「資料に沿って話し合い、内容を十分に把握し、自分の考えを知ります。子どもたちがさまざまな考え方を知って、自分の考えを見つめなおします。」⁵とある。ここに示されている「自分の考えを知る」ことや「自分の考えを見つめなおす」ことは、「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」に示されている「自分との関わり」や「自己を見つめたりする」ことと関わることであると考える。

また、川崎市教育委員会、川崎市立小学校教育研究会発行の中学校学習指導事例集の生徒の感想を見ると、例えば家族に関わる内容項目である4-(6)の感想には、「自分の家族に対する接し方を見直し、家族として支え合えるようになりたいです。」⁶とある。これも自己を見つめ考えたからこそ出てくる言葉ではないだろうか。

このように考えると、小学校学習指導要領実践事例集や中学校学習指導事例集においてすでに実践されていた道徳の時間の授業は「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」の示す「自己を見つめたりする」ことを踏まえた授業展開の一つと考えられるのではないだろうか。

ここで、文部科学省で行われている道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の第7回の配付資料「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（整理案）」の別紙「道徳科における質の高い多様な指導方法について（案）」に示された「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」の授業展開に注目したい。導入では、「①道徳的価値に関する内容の提示、教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。」展開では、「② 登場人物への自我関与教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、自分との関わりで考える。」「③ 振り返り 本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方を振り返り、交流する。」終末では、「④

4 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成27年 p.80

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成27年 p.79

5 川崎市教育委員会 川崎市立小学校教育研究会『小学校学習指導要領実践事例集』平成27年 p.7

6 川崎市教育委員会 川崎市立中学校教育研究会『中学校学習指導事例集』平成27年 p.11

まとめ 教師による説話。」とある。この導入、展開、終末の授業展開は、先ほど紹介した小学校学習指導要領実践事例集や中学校学習指導事例集に掲載している授業展開と同様であると考えられる。このことから、現在行っている道徳の時間の授業展開についても、今後の道徳の授業につながっていく授業展開もあると考える。

(2) 「問題解決的な学習」の指導方法

「小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編」には問題解決的な学習について次のように記されている。「道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。そして、最終的には児童一人一人が道徳的諸価値のよさを理解し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにすることである。」⁷とある。

本研究会議では「問題を見付け」とあることに着目し、展開においてはただ教師が問題を提示するのではなく、児童生徒が問題意識をもつ場面をつくる必要があると考えた。また、「物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである」とあることに着目し、他の人の話を聞き自分の考えをもって話し合いをすることで問題の解決を図ることができるような場面の設定をすることとした。さらに、振り返りを設定し、今までの自分を振り返りながら今後の自分を考えていけるようにしたいと考えた。そのことが「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにする」ことにつながると考えた。最後に、この展開に合わせて導入と終末を考えていくこととした。このことを基にして、本研究会議の問題解決的な学習の授業展開を考えた。

表1 <各校種、学年における問題解決的な学習の授業展開>

		小学校1年	中学校2年、3年	小学校3年
導入		道徳的価値の考察	道徳的価値の想起 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える	
展開	問題意識をもつ	道徳的に問題な状況を引き出す	道徳的な問題の状況の分析	
	問題の解決を図る	問題に対して解決策を構想する		主人公の行動や行為について考えることで、問題の解決を図る
	振り返り	各自で道徳的価値に関わる自分の在り方を振り返り、交流する		
終末		教師の説話、私たちの道徳等でまとめる		

表1がそれを示したものである。作成にあたっては、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議第7回配付資料『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（整理案）」に使われている言葉を参考にした。表1の中学校2年、3年に示したように、導入では「道徳的価値の想起」、展開では「道徳的な問題の状況の分析」「問題に対して解決策を構想する」「各自で道徳的価値に関わる自分の在り方を振り返り、交流する」、終末では、「教師の説話、私たちの道徳等でまとめる」と考えた。この授業展開をもとに小学校の1年生や3年生の授業展開を考えたところ、発達の段階等も踏まえて検討していく中で、少しずつ違いのある展開となった。

⁷ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成27年 p.91

(3) 検証授業の実際と考察

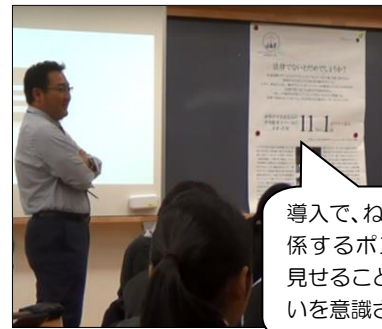
中学校2年生 検証授業①

<問題解決的な学習について>

<授業の流れ>

主題名「他人への迷惑」 4－(1) 秩序と規律 資料名「ロケット花火」 (神奈川県 の 道徳 きらめき2) ねらい 法やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を高める態度を育てる。	
導入	1. JAFの広告「法律でないとだめでしょうか」を見せる。 ○同じような事例が自分たちの周りにありますか。
展開	2. 資料を読み、問題点を生徒に出させる。 ○資料を読んだ感想を発表してください。 ○この資料の中で主人公のいけなかったところはどこでしょう。 *感想の中から、話し合いの柱となるものを選び、話し合う。 ◎主人公はどのようにすればその問題を防げたのかを話し合いました。
終末	3. まとめをする。 ○授業を終えて、感じたことを書いてください。 *感想の中に、自分の生活を振り返ったり今後の生活に生かしたりするようなことが書くことができるように配慮する。

※「◎」はねらいに関わる中心的な発問



導入で、ねらいに関係するポスターを見せることで、ねらいを意識させる。



座席は渦巻き状にして、生徒間の距離を縮めた。

法律でないとだめでしょうか?

高速道路のサービスエリアやショッピングセンターなどの駐車場に設けられた身体が不自由な人のための専用駐車スペース。しかし、残念なことに一般のドライバーがこのスペースに駐車していることがあります。法律で禁じられているわけではありません。でも、この場所を必要としている人が利用できるように配慮する。法律で決められていなくても、それが私たち自動車ユーザーのマナーです。

身体が不自由な人の専用駐車スペースに止まった車 **11**分に**1**台がマナー違反

導入で生徒に提示したポスターの一部。明文化されていない「マナー」について意識させる。

「JAF Mate 誌連載シリーズ『1700万人の力』2006年3月号」

<考察>

導入で、ねらいと関係あるポスターを提示し、ねらいとする道徳的価値の自覚を促した。そのことにより、話し合いでは正解を探すような意見交換ではなく、議題について他者の話を聞きながら自分の考え述べるような姿が見られた。終末では少なからずねらいに関わった感想を見ることができた。また、資料内の主人公の問題点を挙げさせた際に、ねらいとずれるような発言もあった。しかし、中心的な発問で「主人公はどのようにすればその問題を防げたのか」という発問をすることによって、自然と議論からは外れていった。このことから生徒が発見した問題が話し合いの中心議題になり、なおかつその議論が、授業のねらいに近づいたという流れになったのではないだろうか。

生徒の感想には「これからは行動する前に周りの事を考えた方がいいなと思いました」「僕もこういう場面に直面したことになったらしっかりと正しい意見を言いたいと思います」などという意見が多く見られた。自分たちが議題に挙げた問題を議論する(解決する)といった方法をとることで、その問題と今後どのように向き合うかということがイメージしやすくなったようである。

資料内から生徒に問題を発見させ議論・解決に向かう授業を組み立てるためには、それに合う内容項目と合わない内容項目があるように感じる。「きまり」「規律・規範意識」といった内容項目では比較的組み立てやすいと思うが、「伝統文化」は組み立てにくい。「伝統文化」の資料を読む場合、生徒から挙がる問題点の解決策は一義的なもの(伝統文化を大切にしたい方がよい)が多いと予想され、それ以降の議論に深まりをもたせることが困難になる。つまり、組み立てやすいかどうかは問題点とする事柄に対しての解決策が多角的に挙げられるかにかかっていると考えられる。

<授業の流れ>

主題名「友情の尊さ」 2-(3) 友情 資料名「嵐の後に」 (文部科学省 中学校道徳 読み物資料集) ねらい 友情の尊さを理解して心から信頼できる 友達をもち、互いに励まし合い、高め合おうとする道徳的実践意欲を育てる。	
導入	1. 道徳的価値を想起する。 ○あなたにとって良い友達とは何ですか。 ○友達関係で悩んだことはありますか。
展開	2. 資料を読んで話し合う。 ○主人公のものの考え方やふるまいについてどう思いますか。 ○主人公と明夫とのやりとりの中で気になる場面はありますか。 ○テーマを話し合いで決めましょう。 ○テーマについてグループで話し合ひましょう。 ◎グループでの話し合いを通して感じたことや考えたことを発表してください。
終末	3. まとめをする。 ○感想を書いて、発表してください。 ○「私たちの道徳」P.60の詩を紹介しします。

※「◎」はねらいに関わる中心的な発問

<考察>

今回の授業は、問題を提示するのではなく、生徒自身が問題を見つけ、話し合いを通して解決していくことをめざして行った。

導入では、「興味関心をもたせる」「資料の理解を深めるため」だけではなく、「生徒がねらいと関わった問題意識」をもてるように工夫した。個人的な経験を考えて上で資料を読むことによって、ねらいに着目しやすくなったと考える。

展開では、資料を読んで気になった場面や「おかしいな」と感じた場面を挙げさせて、その中から話し合うテーマを決めた。導入の効果もあり、出てきた意見は全てねらいと関わった意見であった。生徒たちが感じた問題意識をテーマにして、グループでの話し合いを行った。グループでの話し合いを行うことで全体では発することがためられる「どうしてそう思うの」や「もう少し詳しく聞かせて」という言葉を言いやすいため、問題解決を図るための話し合いが活発化された。「友達のことを大切に思うなら遠慮せずに言うべきだ」という意見と「関係が壊れるのを恐れて遠慮してしまう気持ちは分かる」という意見を通して、友情について深く考えられたと思う。全体での話し合いでは、グループで出会わなかった意見を聞くことで自分の考えを再考する機会となった。

生徒の感想では、「自分もよく仲の良い友達とギクシャクしてしまうことが多く、自分の気持ちを上手に相手に伝えられなかったけれど、次からは自分の気持ちを優しく相手に伝えていきたいと思いました。」と書く生徒が多かった。生徒が問題意識をもち、自分との関わりとして考えながら話し合いをしたからだと考える。

Q.あなたにとって良い友達とは何ですか。

- ・一緒にいて楽しい人。
- ・黙っていても一緒にいられる人。
- ・お互い何でも言い合える関係。

Q.友達関係で悩んだことはありますか。

- ・ほぼ全員が挙手。

—資料読み

Q.主人公についてどう思い

- ・友達に遠慮していて弱々
- ・誰だつて遠慮してしまう
- ・昔からの関係が壊れるのが
- ・怖がるのはそこではなくて、大切な友達が

Q.資料で気になる場面はありますか。

- ・父から「上っ面だけで付き合ってるじゃない」と言われた場面。
- ・互いに遠慮して言いたいことを言えてない。
- ・最後の2人の会話の場面。

Q.話し合うテーマは何にしますか。

- ・最後の場面で主人公はどんなことを思ったか。

導入で友達について自分はどのように捉えているのかを考えられるようにした。
このようにしたこと、その後の意見もねらいと関わったものとなった。

複写式付箋の活用について

② グループで付箋を渡しながら、自分の意見を相手に伝えましょう。渡された付箋は下に貼りましょう。

自分の意見・同じ意見 ねとなくとも 言い合える関係になれた	自分と違う意見 だつて分かりあって自分か成長できた 思っただ。
一回、ペアで話し合っただけでも、自分も相手も言い合える と思っただ。	元々、世界に比べれば、良の代は

・話を聞くだけではなく視覚的にも捉えられるように付箋を活用した。
・複写式なのでグループで意見を共有できる。
・後に話し合いを振り返り考えをさらに深める。

小学校1年生 検証授業④

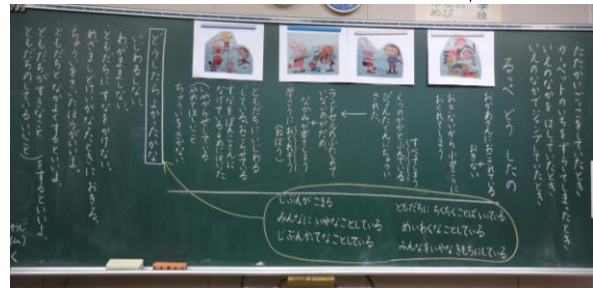
<授業の流れ>

主題名「わがままをしないで」 1—(1) 望ましい生活習慣 資料名「るっぺ どう したの」 (わたしたちの道徳) ねらい わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。	
導入	1. 価値への方向付けをする。 ○お家の人や友達など、周りの人から注意されたことはありますか。
展開	2. 資料を読んで話し合う。 ○(起きない場面) るっぺの行動をどう思いますか。 ○(くつのかかとを踏んでいる場面) るっぺの行動をどう思いますか。 ○(砂をかける場面) るっぺの行動をどう思いますか。 ◎るっぺは、どうしたらよかったと思いますか。 3. 自分の生活を振り返る。 ○わがままをしないでよかったことは、ありますか。
終末	4. まとめをする。 ○先生の話をして。

<問題解決的な学習について>

3つの場面から構成されているこの資料では、問題を意識させるために、1つずつ場面を見ていく中で、るっぺの行動で気になるところを挙げさせた。3つの場面から挙げた気になるところに共通する点、つまり問題として捉える部分を挙げ、そこから解決策を考えた。

児童に問題を意識させるために、発問はどの場面でも「るっぺの行動をどう思いますか。」とした。



3つの場面から挙げた気になるところにある共通点を見つけやすくなるように、黒板を上下に分けた。下の部分には共通点として挙がってくる問題点を板書した。

<考察>

※「◎」はねらいに関わる中心的な発問

1年生の実態として、資料全体から気になるところを挙げさせるとねらいと関係ないところが挙がり、視点が定まらないと同時に話がまとまらない。また、順序立てて資料を見ていかないと、授業の流れを理解できない。さらに、道徳的価値そのものを十分に理解できていないため、様々なことに「どうしてなんだろう」と疑問がわいている。このような実態を踏まえて問題解決的な学習の授業展開を考えた。

検証授業では、問題を意識させるためにまず場面ごとに気になるところを挙げるようにした。発問を全場面「るっぺの行動をどう思いますか。」とし、児童の中から問題と感ずることが挙がりやすいようにした。それぞれの場面から挙げたことに共通すること、つまり問題と捉える部分についての解決策をワークシートを使って一人一人に考えさせた。一つ一つの場面について気になることを挙げていったことで、問題となる部分をしっかりとおさえることができた。板書も場面を追いながら順序立てた構成をしたことで、場面のつながりをもたせながら気になるところを考えることができた。話し合いを通して、別の考えにも気が付くことができた。しかし、一つ一つの場面を意識するあまり、全体に共通する問題についての解決策を考える児童が少なかった。

自分の生活を振り返るところでは、「わがまま」という言葉の理解が難しく、わがままをしていてもそれがわがままであることに気が付いていない児童もいる。そのため、うまく振り返りができなかった。児童の書いたワークシートの内容もゲームを我慢したことが多く、よかった理由としては家の人に褒められたということがほとんどであった。主人公のるっぺもそうだが、わがままをしていることに気付けないということは、わがままをしていないという状況もなかなか理解できないのではないかと感じた。今後はさらに発達段階を踏まえた対応ができるようにしていきたい。

小学校3年生 検証授業③

＜授業の流れ＞

主題名「かくさず正直に」 1 - (4) 正直誠実・明朗 資料名「まどガラスと魚」(文溪堂) ねらい 正直に明るい心で元気よく生活しようとする態度を育てる。	
導入	1. 正直に言おうかどうか迷った経験がないか生活を振り返り考える。 ○今までに、正直に言おうかどうか迷った経験はありますか。
展開	2. 資料「まどガラスと魚」を読んで話し合う。 ○進一郎の行動で、気になるところはありましたか。 ○進一郎は、謝りたいという気持ちはあるのに、なぜ謝れないのでしょうか。 ◎なかなか謝れなかった進一郎が、謝ろうと決めたのはなぜでしょうか。 3. 自分の生活を振り返る。 ○これまでの生活で、正直に言えて良かった、という経験があれば教えてください。
終末	4. 教師の説話を聞く。 ○黙っていようかと思ったけれども、正直に言い気持ちがすっきりした話をします。

※「◎」はねらいに関わる中心的な発問

＜考察＞

「道徳科における問題解決的な学習」を考えるにあたって、「資料の中から問題点を見つけ、解決していこうとする」1時間の組み立てを構想した。はじめに、資料を読んだ後で、「主人公の行動で気になるところはありますか」という発問を考えた。しかし、ねらいをもたずにこの発問をすると、児童からは様々な視点から、主人公の行動における問題点が挙げられると予想した。そこで、事前にねらいとする価値を意識するようなアンケートをとり、導入で活用することにした。(①参照)

検証授業では、アンケート結果を見た後で資料を読んだこともあり、児童は、正直に話すことについて自分はどのように捉えているのかということ意識していたと考えられる。その結果、主人公の行動で気になるところを挙げる際には、遠回りをしても何度も割れたガラスを見に行っている行動、謝ろうと思っているけれども行動に移すことができていない所、謝るのか謝らないのかがはっきりしない所など、「正直に言えない主人公」を意識して気になる行動を挙げている児童が多かった。

中心的な発問の「なぜ謝ろうと決めたのか」について、児童の一部には、自分の体験と重ねてワークシートに書く姿も見られた。例えば、「自分の家の窓ガラスが割れたら、正直に謝ってほしいから」や「謝れない気持ちは分からなくもないが、ずっともやもやした気持ちのままでも嫌だから」などである。(②参照) また、「主人公は正直に謝ったことで、本当のことがようやく言えたという安堵の気持ちであろう」という言葉も聞かれた。

児童は、主人公が正直に言えないことについて考えていく中で、ねらいと関わって考えることができていた。しかし、ねらいからそれないような話し合いをさせたいという教師の思いが強くなってしまい、児童間の話し合いを活発に進められなかった。今後は、児童から出た意見をまとめるというよりも、ねらいと関わって話し合いを進めていくことができるような発問を考えていきたい。

＜問題解決的な学習について＞

①

◇今までの生活の中で、正直に言おうかどうか迷った経験がありますか。○をしましょう。
 (ある) (ない)
 ◇あると答えた人に聞きます。それは、どんなときですか。そして、なぜ迷ったのですか。理由を教えてください。
 ① どんなときですか
 ② まよったりゆう

三年 組の部 ()

自分をぶらぶらさせよう

導入の前に、生活経験を想起するためにアンケートをとった。

②

進一郎がなぜ謝ろうと決めたのかについて、児童は、自分の姿と重ねてワークシートに書いていた。

すっごあやまらなかつたら、自分の気持ちかすの、気持ちはなくて、カラスをわられたいよんも、すっごあやまらなかつたら、自分の気持ちかすの、気持ちはなくて、まどうろくを思、だから

Ⅲ 研究のまとめ

1 「特別の教科 道徳」での授業を見据えた「道徳の時間」の取組について

「学習指導要領特別の教科 道徳編」や道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議第7回配付資料『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（整理案）を見ると現在行っている道徳の時間の授業展開の中に、今後の道徳の授業につながっていく授業展開があることが分かってきた。

今後は、今まで行ってきた道徳の授業が「登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりする」ような授業展開になっているのかをもう一度検証し、そのうえで今後始まる道徳科の授業展開にどのようにつなげていけばよいのかを考えていきたい。

2 問題解決的な学習の授業展開について

導入で道徳的価値について想起を行ったことで、道徳的価値について自分はその価値をどのように捉えているのだろうかということを意識することにつながった。そのことが、読み物教材の中から何が問題になっているのかを考える際に、自分との関わりで考え、問題意識をもつことにつながったと考える。また、問題の解決を図る話し合いでは、自分との関わりで考えて話し合うことができるように考えた。このことにより、問題を解決するとは何を言えば正解になるかということではなく、自分はその問題をどのように捉え、それについてどのように考えるのかということ了他者の考えも踏まえながら考えられたのではないかと考える。

一方で、小学校1年生で行った検証授業では、道徳的価値そのものを十分に理解できていない場合は、道徳的価値の想起を行うことは難しいことが分かった。そのような場合には、その授業における道徳的な問題を提示して授業を行うことも考えられるのではないだろうか。このことから、教師が問題を提示した場合の授業展開についても検証していく必要があると考える。

本研究会議で検討した問題解決的な学習の授業展開は一つの方法に過ぎない。今後は、今回検討した授業展開について、課題を踏まえた改善を行うとともに、新たな問題解決的な学習の授業展開についても考えていきたい。

最後に、本研究を進めるに当たり、適切なお助言をくださった先生方、研究をご支援してくださった研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第7回）
配付資料「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（整理案） 2015年
川崎市教育委員会 川崎市立小学校教育研究会
- 『「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価の工夫改善Ⅳ（小学校道徳）』 2015年
川崎市教育委員会 川崎市立中学校教育研究会
- 『「生きる力」をはぐくむ学習指導と評価の工夫改善Ⅲ（中学校道徳）』 2015年